

出張調査報告書

会 派 名 自民清流

代表者名 西岡真一 様

下記のとおり出張調査しましたので、報告いたします。

令和 6 年 9 月 20 日

期 日	令和6年9月10日から令和6年9月12日まで		
出張調査先 調 査 項 目	(出張先)	(具体的調査項目)	
	11日(水) 航空自衛隊 小松基地	◎小松基地の概要について ・沿革、地理的環境、部隊、任務遂行状況、災害派遣 ・官民共用空港としての運用について ・装備品視察 ・基地司令表敬	
	12日(木) 鉄道・運輸 機構、 JR 西日本、 福井県庁	◎北陸新幹線の概要について ・金沢～敦賀間開業までの経緯について ・料金設定の状況について ・開業後の効果について ・敦賀～大阪間のルートの検討状況について ・並行在来線（第三セクター）の運営状況について	
出張者氏名	西岡 真一	御厨 洋行	平原 嘉徳
	重松 徹		

用 務 内 容	
	○9月11日（水）10:00～11:30 航空自衛隊小松基地
	応対者 航空自衛隊小松基地司令 空将補 村上 博啓
	防衛省近畿中部防衛局地方調整課長 増田 隆宏
	〃 基地対策室長 上地 良政
	〃 小松防衛事務所長 大野 真司
	〃 〃 次長 金田 達映
	・近畿中部防衛局による、空港隣接地の運動施設（防衛省整備）視察。
	・基地概要について、航空自衛隊からのレクチャー、質疑応答。
	・防衛装備品視察（F-15 戦闘機）
	・小松基地司令表敬
	○9月12日（木）9:30～12:00 JR 福井駅構内
	応対者
	鉄道・運輸機構北陸新幹線建設局計画部長 永利将太郎
	〃 担当課長 菊田 智之
	〃 課長補佐 松村 有弘
	西日本旅客鉄道（株）金沢支社総務課長 武田 篤史
	〃 総務課北陸新幹線 PT 福地 裕
	福井県庁
	新幹線・交通まちづくり局新幹線対策連携室長 前田 浩伸
	〃 新幹線建設推進課参事 井戸 康清
	地域鉄道課長 坂下 正人
	鉄道・運輸機構により、福井駅の整備状況についてレクチャー。
	その後調査項目について、各担当からの説明。佐賀市議会側からの質疑。

所 見	○西岡真一
	①航空自衛隊小松基地 「小松基地の概要について」
	騒音対策で空港西に隣接する住宅地 20 ㉔を買上げている。過去にも隣接地に運動施設を整備し市に貸付けている。佐賀駐屯地でも隣接地を買増す計画があり、類似の活用が行われる可能性がある。
	小松基地には、中央航空総隊所属の戦闘機航空隊と、近畿中部方面隊所属の教導群や救難航空隊などが配備され、防空や災害派遣などにあ
	たっている。空港は、自衛隊と民間航空が共同使用する官民共用空港の一つであり、民間空港としては国内線、国際線が就航し、旅客数は日本
	海側最大。滑走路の維持、管制及び安全管理は小松基地が管轄。
	日ごろから、地元行事に隊員が積極的に参加するなど、地域住民や民間航空との関係構築、相互理解に努めている。基地司令から「地域に支
	えられている」との発言もあり、地域との関係を重視していく姿勢を感じた。佐賀市でも、受容れる市民側との理解醸成が大切だと思う。
	②鉄道・運輸機構、JR 西日本、福井県庁「北陸新幹線の概要について」
	北陸新幹線は、ことし 3 月金沢～敦賀間が開業。東京～敦賀間は 50 分短縮。また、北陸 3 県内の移動も主要部が 1 時間程度で結ばれた。福
	井～金沢間の利用客は 26%増。料金は、東京～福井間は 530 円安くな
	ったほか、金沢～福井間は 670 円上昇。一方で、乗継ぎを介する福井～
	大阪間、福井～名古屋間は 1,150 円上昇。
	大阪から金沢まで運行していた特急は、敦賀までとなり、乗換が生じ
	て、北陸から関西圏、中京圏へのアクセスはかえって不便になった面もある。しかし、東京圏、信越圏とのアクセスが向上し、人的交流は格段
	に増えている。東京圏での観光宣伝や企業誘致活動は、新幹線開業前から行っているとのこと。今後効果も期待できると思う。
	福井県内では並行在来線が JR から分離され、ハピラインふくいとして第 3 セクター開業。商業施設の開設にあわせ、新駅を設置する計画があるなど、厳しい環境の中で必死に黒字を目指している。
	新幹線整備に伴い、JR が在来線を切離す基準が一日の乗客数 8 千人
	とのこと。高いハードルだが、新鳥栖～武雄温泉間は十分にクリアしていると思う。今後 JR 九州にも確認していきたい。

所見	○御厨洋行
	①航空自衛隊小松基地 「小松基地の概要について」
	小松飛行場は、総面積 4,397,259 m ² のうち 3,922,668 m ² を防衛省が、474,591 m ² を国土交通省がそれぞれ所管する共用空港で、設置管理者は防衛大臣である。基地に配備されている自衛隊機は、戦闘機 (F-15J (2 飛行隊))、練習機 (T-4)、ヘリコプター (UH-60J) 及び搜索機 (U125A) の各機種。昭 51 年から配備されていた F-4EJ ファントムについては、平成 8 年度末に F-15J イーグルに変更配備。
	一方、民間航空については、国内線、国際線、貨物便が就航している。それらによる騒音の影響範囲は小松市をはじめ周辺 5 市町に及んでいる。特に、ジェット戦闘機については騒音レベルが高いためその影響も深刻であり、国においては独自に航空機騒音対策として基地周辺の学校等公共施設の防音工事を進めるほか、隊員が地元の行事ごとに積極的に参加するなど融和を図っている。
	そもそも歴史的背景をみると、基地があったところに旅客機が離発着できる空港を併設したにも関わらず、このような騒音問題が起こるのであれば、本市におけるオスプレイ配備計画においても、騒音問題に係る対策を十分にしておく必要がある。
	②鉄道・運輸機構、JR 西日本、福井県庁「北陸新幹線の概要について」
	3 月 16 日、福井県に待望の北陸新幹線が開業。県内はこれまでにない賑わいと熱気に包まれているようだ。県の推計によると、2024 年 3 月の開業から 8 月までに、あわら温泉、福井、敦賀の新幹線駅周辺を訪れた人の数は合わせて約 294 万人。前年の同じ時期と比べると 23%増。一方で北陸新幹線延伸に伴い、運行区間が新幹線と重複するサンダーバード号は運転区間が短縮され、2015 年の新幹線金沢延伸で金沢～魚津間の乗り入れが、2023 年の新幹線敦賀延伸で敦賀～金沢間の乗り入れが廃止された。
	北陸新幹線・金沢～敦賀間の開業にあわせて JR 西日本から経営分離される並行在来線 (北陸本線) の福井県内の区間については福井県などが出資する第三セクターが運営し、県境の石川側にある大聖寺駅で、北陸本線の石川県内区間を引き継ぐ IR いしかわ鉄道と連絡する。

[illegible]

所見	○平原嘉徳
	①航空自衛隊小松基地 「小松基地の概要について」
	小松飛行場は、昭和 36 年の自衛隊基地開設のときから防衛省と国土交通省とが所管する共用空港で、F-15 戦闘機、T-4 練習機、ヘリコプターなどが配置され、スクランブル出動など、防空や災害派遣に当たっている。
	要望により空港西の隣接地 20 ㌦を買上げている。活用策はこれから検討する。これまでも隣接地を買い上げて運動施設を整備してきた。施設は市に貸している。佐賀にできる自衛隊基地も、要望により隣接地を買増す予定であり、活用策を検討する必要がある。
	地元の行事には、できるだけ隊員が参加するよう指導している。地域との関係構築が重要。川副では佐賀市内で最も人口が減少している。自衛隊とのよい関係をつくって地域の活性化に役立てていてもらいたい。
	②鉄道・運輸機構、JR 西日本、福井県庁「北陸新幹線の概要について」
	北陸新幹線は、ことし 3 月 16 日に金沢～敦賀間が開業した。福井県は恐竜の化石が有名で、新幹線駅も、駅の外も恐竜の絵や動く模型などで、恐竜を使った町おこしに熱心に取り組んでいる。新幹線の開業効果を発揮させようと工夫がされている。
	新幹線ができることで、JR が在来線を分離するとき、一日の乗客数 8 千人が目安になるとのことだった。佐賀駅を通る区間は 8 千人以上乗降しているのではないかと思う。

所見	○重松 徹
	①航空自衛隊小松基地「小松基地の概要について」
	小松市は基地の町である、昭和 36 年の航空自衛隊小松基地開設から
	自衛隊と小松市の「共存共栄」に至る小松空港は、一本の滑走路を小松
	基地と共用している。基地周辺住民の理解と協力のもとで、防衛施設が
	円滑な運用と生活環境向上を図るため色々な施策を実施している。
	こう言った環境の中で小松基地においては近年、中国・北朝鮮・ロシアに於ける緊迫化した状況の中で、小松基地からの緊急発進のスクランブルが増えていると言う説明を聞いた。
	この小松基地は日本海側の砦である、小松基地の重要性も増しているなか航空機パイロットの養成も急務であり、騒音対策、宅地の確保等の生活安全対策に十分考慮しながら日本の国防に取り組んでいただきたいと思った。
	一方、佐賀空港には令和 7 年 7 月にはオスプレイ 17 機が配備される、ここも佐賀空港との共用になりますので、とにかく安全第一で運行してもらおうことを願うばかりであります。
	②鉄道・運輸機構、JR 西日本、福井県庁「北陸新幹線の概要について」
	2024 年 3 月 16 日に北陸新幹線が金沢・敦賀間が開通になり、北陸が首都圏から日帰り圏内となり観光・ビジネス目的の人の往来が飛躍的に増大し大きな経済効果を生んでいる。
	福井市に取っても、新幹線効果は波及し特に観光客は県立恐竜博物館は前年対比 29 万人増の 105 万人を記録し過去最高となった。また市が誇る一本谷朝倉氏遺跡においても観光客数が 100 万人を達成し、道の駅「一条谷あさくら水野駅」でも年間来客者数が従前の 4 倍以上に増加していると報告があった。
	こうした中で、新幹線の利用者にとっての利便性向上効果に止まらず、新幹線駅の整備や在来線も含めた鉄道の高架化により、新たな街づくりの契機にもなっているようである。
	新幹線の開業は、新幹線に乗る人、来訪客の増加で潤う人にとっての恩恵が解かりやすいが、街づくりの進展への影響を考えると、その恩恵はもっと広く新幹線にあまり乗らない人にも及ぶんだと感じた。

佐賀市も佐賀駅開業をゴールとして、佐賀市への来訪者の増加策や街づくりを早く進める事が重要ではないかと視察を通じて強く思った。

所見

出張調査報告書

会 派 名 自民清流

代表者名 西岡真一 様

下記のとおり出張調査しましたので、報告いたします。

令和 7 年 1 月 24 日

期 日	令和7年1月14日（火）		
出張調査先 調 査 項 目	（出張先）	（具体的調査項目）	
	宮崎市 ・宮崎観光ホテル ・航空自衛隊 新田原基地	◎第19回九州・沖縄防衛議員連盟連絡 協議会総会	
出張者氏名	西岡 真一 	重松 徹 	

[illegible]

所見	○西岡真一
	・九州沖縄全域から約 370 名の議員が参集した。
	・この連絡協議会の令和 5 年度事業は福岡県での総会等が主で、議員からの会費など約 579 万円の収入に対し約 445 万円を支出し、約 134 万円を繰越。監査報告を経て決算を承認。
	6 年度事業計画は、総会、講演会及び市町村における防衛議員連盟設立の要請等。収支約 553 万円の予算と併せ承認。(実質事後承認)
	大会決議は、国防上の諸施策に必用な予算措置推進等を決議。
	・元統合幕僚長の山崎幸二氏による講話は主に、制度改変により統合幕僚長のもと、事態に応じて陸自方面総監、自衛艦隊司令官、航空総隊司令官等から構成部隊を差出し、統合任務部隊として陸海空一体となった運用ができるようになったこと等の内容であった。
	・講話の後、チャーターバスで航空自衛隊新田原基地へ移動し、F-15 戦闘機緊急発進の展示訓練を視察した。
	・中国の台頭に伴い九州・沖縄地区における防衛力整備が重要となってきたが、彼我の勢力差は日々拡大し、日本の国土や国民の安全安心を守るハードルは高まりつつある。一方で、佐賀駐屯地整備工事への組織的妨害活動等が示しているように、国防をあたかも悪の権化と決めつける風潮は根強く、理解はまだまだと言わざるを得ない。
	空自緊急発進の訓練では、レクチャー役の自衛官が、初めて緊急発進した際足が震えた等の体験談を語っていた。
	緊急発進は常に戦闘機 2 機で行われるが、これは自衛隊が専守防衛であるため、外国機から攻撃を受け、1 機が撃墜される事態となっ
	てはじめて反撃が許されるからであると聞く。年間何千回もの緊急発進の都度、自衛官は命の危険と隣合わせで飛んでいる、そのことをはじめとする多くの事実
	に国民はもっと共感すべきではないのか。
	幸いに、佐賀県内では各市町で防衛議員連盟設立の動きがあると聞いた。住民に身近な我々地方議員がこうした国防の現状を理解し、国民、県民市民に啓発していくことが今後さらに求められる。
	令和 7 年度はこの総会が佐賀県で開催される。佐賀駐屯地整備をはじめ、国防に関する市民、県民の理解醸成に、しっかりと努めてまいりたい。

所 見	○重松 徹
	本総会の目的は、国防に対する住民の意識向上と自衛隊の充実・発展に寄与することであり、平成 17 年に設立され、その後九州県内持ち回りで開催されており、今年は宮崎県がホスト県で開催された。この総会には九州各県の防衛議員連盟などから約 400 名が出席し盛大に開催された。
	総会に来賓として出席された、山下博三会長からは「国土の防衛はもとより災害時の救援、生活支援活動など自衛隊の存在は国民の信頼と大きな支援を得ているので議員連盟としては今後とも自衛隊の充実・発展に対し協力は惜しまない」と挨拶がありました。
	また総会終了後には「我が国の平和と安全を守る」をテーマに防衛省顧問の山崎幸二氏による防衛講話がありその後航空自衛隊新田原基地での戦闘機等の研修視察が行われた。
	それと、令和 7 年度は「佐賀県」がホスト県となり九州大会を行うことが、全会一致で承諾されました。この席上で佐賀県議の木原奉文会長からは、オスプレイが 7 月に暫定配備されている千葉県木更津駐屯地から佐賀空港に移設になるので、今年の九州大会ではこの佐賀駐屯地の視察を計画しているので、九州各県とも多数の参加をお願いしたいと挨拶がありました。
	佐賀市防衛議員連盟としても、引き続き県内 20 市町における、防衛議員連盟の設立を目指すと共に、わが国の防衛に対する意識の共有をお願いしたいと挨拶がありました。
	総会では、議案審査が行われると共に、自衛隊定数の増員および任務遂行のため必要な予算増額措置の推進を図ることなどを求める大会決議が採択されました。

出張調査報告書

会 派 名 自民清流

代表者名 西岡真一 様

下記のとおり出張調査しましたので、報告いたします。

令和 7 年 2 月 14 日

期 日	令和7年2月3日から令和7年2月5日まで		
出張調査先 調 査 項 目	(出張先)	(具体的調査項目)	
	4 日 (火) 陸上自衛隊 石垣駐屯地	◎石垣駐屯地の概要について ・ 陸上自衛隊の南西展開について ・ 八重山諸島の概況について ・ 石垣駐屯地の編成、任務、災害対応等について ・ 隊員と地域住民との交流について ・ 地域自治体、他機関等との連絡調整体制について	
	5 日 (水) 沖縄防衛局	◎沖縄防衛局の概況について ・ 沖縄防衛局の編成について ・ 沖縄関係予算について ・ 防衛施設、米軍施設について ・ 沖縄、南西諸島地域における防衛体制について	
出張者等氏名	西岡 真一	御厨 洋行	平原 嘉徳
	重松 徹		

[illegible]

所 見	○西岡真一
	①陸上自衛隊石垣駐屯地 「石垣駐屯地の概要について」
	石垣駐屯地は、石垣島や尖閣諸島など 32 の島嶼を守る八重山警備隊の中核。八重山諸島の人口は合せて約 5 万 7 千人。国防に対して地域住民にもいろいろな考え方があり、過去に反対もあったが、中国などの威圧的な動きを身近に見ていることや、災害時の安心に繋がることもあり、概ね理解が得られているとのこと。
	消防や自治体と協働で物資輸送や人命救助など災害対処の訓練も行っている。野外炊事訓練を競技会形式で行い、市長や栄養士会等と審査(試食)を行うなど、訓練に地域交流を取り入れる工夫もされている。
	施設見学の受入、地域のスポーツチーム等の体育館利用受入、地域のマラソン参加者の入浴協力なども行っている。隊員も地域住民であり、地域行事にも積極的に参加し、牽引役となっている。
	中村司令は、石垣市長とは行事ごとのたび顔を合わせ、島の海上保安隊長ともいつも飲んでいるなど、良好な人間関係構築に努めている。
	地域に溶け込み一体化するため、頭の下がる取組がなされている。
	消防や警察と同様、自衛隊も住民の安全安心を守るものであるはずだが、報道や教育等が印象を悪くしているせいか、地域の理解を得るため、微に入り細にわたり、多くの努力が求められる。受容れる地域としても、自衛隊の実情を理解し、協力していく必要があるのではないかな。
	7 月からは佐賀市も、駐屯地のある、駐屯地と共にある地域となるが、南西諸島のように、外国からの脅威を自分事として考える住民は少ないと思われる。良好な関係が築かれていくよう努めたい。
	②沖縄防衛局「沖縄防衛局の概況について」
	沖縄防衛局の基地対策予算の 52%、1,084 億円が、米軍が接收している民有地の借地料。本土では米軍専用施設面積の 93%が国有地なのに対し、沖縄では民有地が 77%を占める。普天間飛行場移設など米軍再編関連経費も年間 1,132 億円。これらはいわゆる「思いやり予算」であり、日本一国では国を守れない実態がリアルに感じられる。
	自衛隊の南西諸島展開に付随する地域振興策については、令和元年以降の実績で、石垣市、宮古島市、与那国町のごみ処理施設、運動施設

所見	○御厨洋行
	オスプレイ配備による自衛隊を誘致する佐賀市。人口増による経済効果や賑わい創出が期待される。また大切なことの一つとして地域が受け入れるか否かという点。
	石垣駐屯地では基地自体の受け入れはもちろんだが自衛隊隊員本人、そして家族、関係者。今回の視察で学んだことは地域にしっかり馴染んでいるということが理解できた。
	地域行事に積極的に参加する隊員及びその家族。音楽隊やダンスで様々なイベントへの出場。学校での音楽指導。マラソン大会後に災害用のシャワーを準備提供。基地自体のデザインにも配慮が見受けられる。一見するとリゾート施設かと思うような色合いとレイアウトの建造物。きれいな星空を阻害しないよう照明の設置工夫。島に二か所しかない空調付きの体育館を一般貸出など地域との連携がしっかりできている、絆を感じた。
	沖縄防衛局では地域からの陳情や要望をしっかり汲み取り小まめな会合を開き開かれた自衛隊。地域と共存する自衛隊の姿を学ぶことができた。
	佐賀市においてもこのように自衛隊が来てよかった。と感じられるようなかたちが理想である。

所見	○重松 徹
	①石垣駐屯地「自衛隊の南西諸島防衛について」
	石垣駐屯地は 2023 年 3 月、西南諸島の「南西シフト」の拠点の一つとして開設され、常備自衛官は約 570 名で八重山警備隊の他、地対空ミサイル・地対艦ミサイルの両部隊が配備されている。
	この南西地域については、全長が約 1,200km にも及び広大な地域であり 2016 年 3 月に与那国島に駐屯地が開設されるまでは、沖縄本島以外には陸上自衛隊の部隊の空白状況がつづき、この状況を解消すべく 2019 年 3 月に宮古島や奄美大島に駐屯地が開設され 2023 年 3 月に石垣島に駐屯地が開設され、南西諸島防衛に自衛隊関係者は反対もあり時間がかかったが「ようやく間に合った」と言うことでした。
	ただ各駐屯地司令室では、戦争を防ぐための抑止力は上がったと思うがただ実際の有事の時は最初に対処を担うのは「南西シフトの各駐屯地」であり特に「絶対避けなければならないのが島内がパラバラになることであり」我々の部隊は戦争を起こすために石垣島に来たのではなく南西諸島の島民を守るために来たんだと考えを示されました。
	本当に感激しましたが、一方では島民の理解は確実に進んでいるものの、反対派がいなくなると言うことではなく、島民の中には米中対立のはけ口の場所がなぜ、わたしたちの島なのかという疑問に国は答えてくれないと言われる島民も多くいられると言うことでした。
	佐賀市も駐屯地立地市として考えさせられる視察でありました。
	②沖縄防衛局「自衛隊の南西展開と地域との連携体制について」
	いま沖縄防衛局の大きな問題になっているのが、米軍の基地の多くが町の真ん中近くにあるので、ショッピングセンターや公園、道路を造ることなどが難しい状況であった。また、米軍の飛行機やヘリコプターの事故が起きたり、戦闘機などの大きな音が原因で夜眠れなかったり、また米軍基地からの飛行機などの燃料油が漏れて川や海を汚し、沖縄の豊かな自然環境を壊してしまうなど色んな問題がこれまで起きて来ていた。そんな中、普天間飛行場の代替え施設への移転に伴い沖縄本島中南部の人口密集地に所在する 6 つの米軍専用施設の約 7 割(約 1,048ha:東京ドーム約 220 個分)が返還になるようである。

[illegible]